

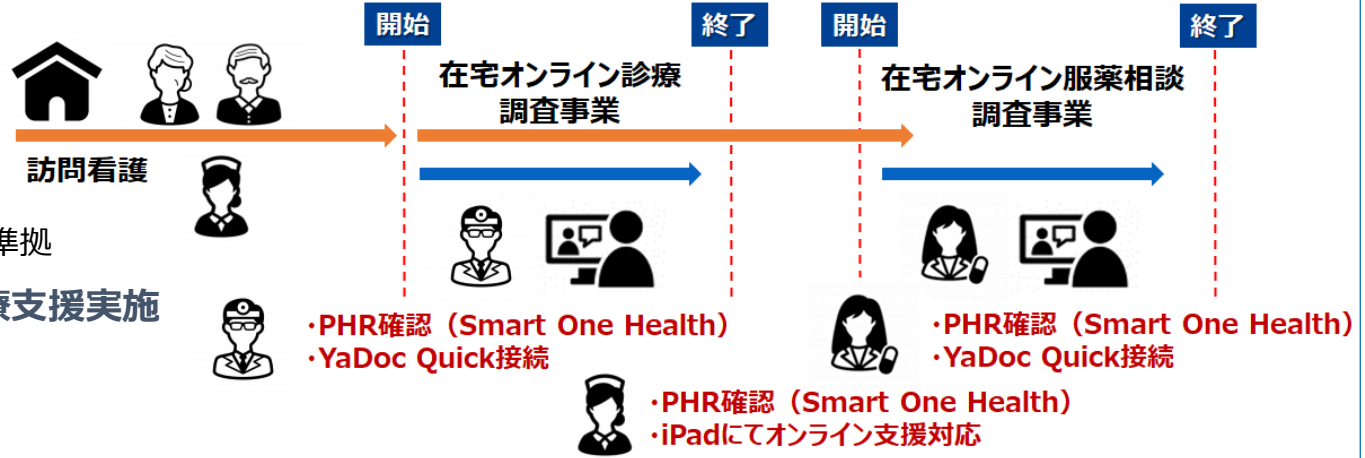
7つくばヘルスケアデータ連携ユースケース創出調査業務【報告書概要版】

【① PHRデータと連携したオンラインシステムの活用】

【調査概要】

- ・ PHRを活用したオンライン診療・服薬相談
- ・ 訪問看護師による「D to P with N」対応
- ・ 診療報酬は未請求、電子処方箋未発行
- ・ 「オンライン診療の適切な実施に関する指針」準拠

訪問看護師が患者宅にてオンライン診療支援実施



【主な有効性と残存課題】

	主な有効性	主な残存課題
患者	<ul style="list-style-type: none"> ● 訪問看護後に受診可能 ● 自宅でのリラックス感あり 	<ul style="list-style-type: none"> ● PHR、オンライン環境設定必要 ● 実施するまでが不安
医師	<ul style="list-style-type: none"> ● 効率的に診療実施可能 ● PHR即時情報共有可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 診療報酬上の評価なし ● 薬剤師との情報共有方法
看護師	<ul style="list-style-type: none"> ● 医師に対する即時フィードバック、相談可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 診療報酬上の評価なし ● 実施するまでの段取り負荷 ● オンライン環境設定、操作方法等
薬剤師	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者と対面することが可能 (普段は家族が来局) ● 疾患以外の情報入手可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 診療報酬上の評価なし ● 実施するまでの段取り負荷 ● 看護師がいないと難易度高い ● オンライン診療後の情報共有方法

課題解決のポイント

- ★システム環境設定**
 - ・ サービス利用等のタイミングで説明・同意
 - ・ 地域関係者にてシステム環境設定サポート
- ★オンライン実施支援**
 - ・ 訪問看護師によるオンライン支援 (医師等サポート、患者・家族の安心感)
- ★情報共有方法**
 - ・ PHRデータ事前情報共有